厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者　城間将江　国際医療福祉大学　成田保健医療学部　教授

研究要旨：聴覚障害の他に何らかの障害が重複する人工内耳装用児における言語・コミュニケーション、社会性の発達および生活の質的変化について先行研究をレビューした。その結果、音声

言語や語用能力の発達は聴覚障害単独の児に比し遅れる傾向があるものの、人工内耳装用によって生活の質が向上することがわかった。

A．研究目的

先天性難聴児の約3割は、聴覚障害の他に何らかの障害が重複する可能性が高いと言われている。さらに他障害が複数の場合もある。これらの重複障害児にとって、聴覚障害単独の児童同様に、人工内耳は言語、コミュニケーション、社会性の発達に有用と判断できるか、また療育・教育上の注意点は何か、文献をレビューし解説をまとめる。

B．研究方法

以下の手順で論文検索・評価・分析を行った。

１）医中誌とPubmedにおいて、cochlear implant、 children and/or pediatric, additional disabilities and/or multiple handicap,をベースに検索した。

２）重複障害児の教育環境やQOLについて追加検討する目的で、PsychoINFOにおいて、quaolity of life,educational placementdeで検索した。

３）論文の約９割は対象とする症例数が少ない、あるいは特定疾患の重複に関する報告で本研究の目的と合致しないと判断し、療育や教育に関する内容およびQOLの変化について言及していることを条件に論文を評価・分析した。

４）難聴児、特に重複障害児の療育・教育体制は国によって異なることを勘案し、日本の特別支援学校（聴覚）の現状に関するレポートをハンドリサーチし、参考資料として検討した。

（倫理面への配慮）

本研究は先行論文調査と評価であるため該当しません。

C．研究結果

重複障害の人工内耳装用児に関する研究報告が少ないこともあるが、選択した論文のエビデンスレベルはIIb～IVであった。

D．考察

重複障害児は聴覚障害単独の人工内耳装用児と比較して言語・コミュニケーションの発達が遅く、人工内耳のNon-userになる確率が高い。しかしながら、発達速度は遅いものの、人工内耳装用によって着実に言語力や生活の質の向上が認められる、個別指導や養育者の関与度の高さによって発達が促進されることなどが報告されている。

重複障害児における人工内耳装用の有用性は明らかであるが、テーマの特性上、実証的研究になりにくいのが課題である。

E．結論

今回の調査を基に、重複障害児の療育の注意点の解説を作成する

F．健康危険情報

G．研究発表

1．論文発表

該当なし。

2．学会発表

該当なし。

H．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得

該当なし。

２．実用新案登録

該当なし。

３．その他

該当なし。